

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと併せてご活用ください。

～高まる直接投資収益への期待、社会保障費と国民負担はどこまで増えるのかについて考えます。

- 2012/8/28 「高まる直接投資収益の重要性 ～特に非製造業、アジア地域での拡大が期待されるも、道程は険しい～」
2012/8/22 「2060 年代を見据えた財政健全化のための負担 ～社会保障給付費はGDP比で 30% まで増加～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～国債買入れの銀行券ルールとは？日銀にとって消費税増税の意味するものは？を解説します。

- 2012/8/22 「銀行券ルールとは何か ～大量資金供給によってなし崩しになる自己規律～」
2012/8/13 「消費税増税と日本銀行の関係 ～2013 年秋に向けた金融緩和の強化～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～人口構造の変化が消費をどう変えるか、政府の掲げる成長率目標の達成可能性を分析しています。

- 2012/8/27 「少子高齢化による消費構造の変化 ～2015 年までは高齢化進行、2020 年以降は少子化 顕在の消費構造～」
2012/8/17 「名目 3%、実質 2%成長は実現可能か ～人口動態から実質 2%成長は厳しいが、円高・金融政策も名目成長の大きな制約～」

掲載カテゴリ：永濱利廣の「エコノミック・フォーカス」

～財政危機の連鎖阻止に足並みのそろわぬ欧州、景気悪化の波及に身構えるアジア新興国。

- 2012/8/29 「欧州 夏休み明け後の欧州関連の注目日程 ～市場の関心は再び欧州債務危機へ～」
2012/8/15 「アジア（中国・インド・NIES・ASEAN 5）経済見通し（2012 年 8 月）～外需が重石 になる中、アジアは内需喚起により緩やかな景気拡大を実現しよう～」
2012/8/13 「中国 本格的な景気の底離れは年後半 ～財政・金融政策の後押しは年後半の景気浮 揚を促すであろう～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」、西濱徹の「アジア・新興諸国経済」

編集後記

今月掲載の日本の経済見通しにあるように、雇用・所得環境の改善が緩やかにもかかわらず、本年前半の消費はしっかりしていた。エコカー補助金制度による自動車販売などが消費を支えたためだ。

消費堅調の背景には、高齢者のサービス、レジャー支出も寄与しているようだ。熊野首席エコノミストによると、60 歳以上の消費支出は個人消費全体の 4 割を超える 100 兆円に達し、存在感は非常に大きい。今回は勤労世代より、退職者の多いシニア世代の消費行動が注目を浴びていることが注目される。

日本百貨店協会によると、6 月までは美術、宝飾、貴金属など高額品売上が 8 ヶ月連続で前年を上回った。ただ株式相場が冴えないなかで異例に高額品が売れたのは、ベテラン投資家のあきらめ消費では、と心配にもなる。来年度には、消費税率引き上げ前の駆け込み消費という、また特殊要因が見込まれている。(H. U)